

企業名：ウィルグループ

レポート名： 統合報告書 2022

1. この会社が目指している将来の姿が理解できるか

ウィルグループが目指す将来像は十分に理解できると考える。

ウィルグループは、販売員、オペレーター及び軽作業員の人材派遣、業務請負、人材紹介等を展開している会社である。まず、ウィルグループは経営理念に、以下の3つを掲げている。

MISSION—個と組織をポジティブに変革する「チェンジェージェント・グループ」を目指す

VISION—「働く」「遊ぶ」「学ぶ」「暮らす」の事業領域において、期待価値の高いブランディングカンパニーを創出し、各領域において No.1 の存在になる

VALUE—Believe in Your Possibility –可能性を信じる—

この3つが統合報告書のはじめに紹介されている。また「ウィルグループの価値創造ストーリー」として見やすい図とともに、業務内容とウィルグループが提供する価値が明確に示されている。

さらに、以下のような人権や気候変動、SDGs などへの取り組みが紹介されている。

- ・自社運営の介護資格スクール「WILLOF ケアアカデミー」での「介護福祉士」の資格取得支援
- ・女性活躍推進プロジェクト『ウィルカラ』：女性が活躍できる風土の醸成
- ・在宅型業務委託センターサービス『ZaITact（ザイタクト）』：多様な働き方の選択肢を提供
- ・→障がい者雇用の推進→特例子会社ウィル・オブ・チャレンジの設立
- ・外国人の雇用推進→生活支援サービス『ENPORT』や労務管理システム『ビザマネ』 など…

これらの取り組みを通して、ウィルグループは事業の中心である人材ビジネスの領域において更なる実績を上げると考えられる。

以上より、会社の目指す将来の姿が統合報告書から理解できる。

2. この会社の現在の競争優位性が理解できるか

統合報告書の23ページから始まる事業ポートフォリオにおいて、展開している人材サービスを次の4つに分けている。・**利益最大化領域**（営業利益率を高める事業群）・**戦略投資領域**（中長期のグループの柱を目指す事業群）・**探索領域**（将来グループの柱となれる事業群）・**見極め領域**（事業の継続可否を判断、または撤退準備に入るべき事業群） 人材派遣サービスを主とする会社として、事業ポートフォリオに力を入れていることが分かる。今後ますます需要が高まる

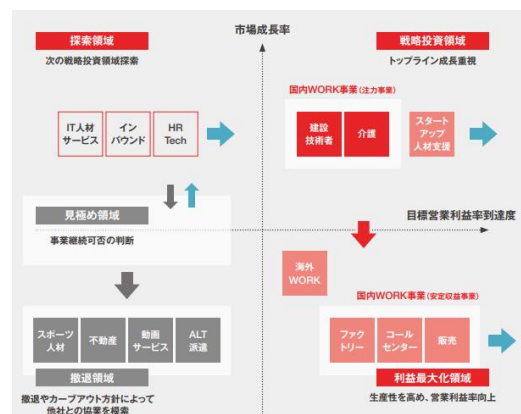


図1：事業ポートフォリオ（統合報告書 23P より作成）

であろう介護事業や人材不足と業界全体の高齢化が懸念される建設技術者事業を戦略投資領域に入れていたり、スポーツ人材や不動産、動画サービスを見極め領域に入れ見切りをつけていたりする点がウィルグループの強みであると考える。このように事業ポートフォリオがマトリックスを使用してわかりやすく示されているため、ウィルグループの現在の競争優位性を十分に理解することができる。また、東南アジアを中心に9つのブランドで海外進出しており、今後成長していこうアジアの市場を開拓できていることは、この会社の強み、競争優位性であると考える。

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

人材ビジネスは、グローバル化、技術革新、人々の価値観の変化など様々な社会の変化に対応することが大切である。この観点から統合報告書を読み直すと、展開している事業や社内での取り組みが、そのまま社会の変化に対応する努力をしていることがわかり、ウィルグループの競争優位性は十分に持続性があると理解できる。[10年後もなくなる仕事 8選\(theport.jp\)](https://www.theport.jp)によると、介護職は実際に人の手が必要であったり、コミュニケーションが必要であったりするため、完全な AI やロボットの導入による機械化は難しいとある。また、日本では少子高齢化が進行し、介護職における人で不足、需要の増加が予想される。このような事実と予測を考えると、介護事業を戦略投資領域に分類し、積極的に投資している点で、ウィルグループの競争優位性に持続性があることを示している。探索領域に IT 人材サービスやインバウンドなど今後成長していくような事業が展開されている点も競争優位性の持続性を示している。さらに、サステナビリティ方針に「世の中にポジティブな変化を起こし続けること」を掲げ、人事本部本部長によれば、「人」が財産であるウィルグループの事業において人と企業における社会課題を解決していくことがウィルグループの社会的責任であると述べている。この方針のもと前ページに挙げた取り組みを進めていることが示されている。

以上から、統合報告書からウィルグループの競争優位性は持続性があると理解できる。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

「介護福祉士」に限らず、資格取得支援が充実していること、フレックスタイム制度や在宅勤務制度など多様な働き方ができること、海外の支社で働くことができることを考えると、自分のキャリアや働き方、語学力の向上やネットワークの拡張につながると想像できるため、私の人的資本としての価値を高めることができると思う。また、多様な業種や人とのかかわりの中で得られる知見はとても価値あるものだと考えているため、ウィルグループで働くと、そのような経験ができると思えた。

5. 報告書のよかった点はどこか、どのような改善余地があるか

各グループの取締役のインタビューだけでなく、プロジェクトメンバーのインタビューも掲載されていて、違う立場からのお話を読むのは、興味深かった。また、SDG s 関連の取り組みについて十分に説明されていて、企業のサステナビリティと社会的責任について理解しやすい統合報告書だった。活躍する女性の実際の事例が載っていると、女性の活躍を推進していることが伝わりやすくなるため、より良くなると思った。

参考文献

[株式会社ウィルグループ | 統合報告書 \(willgroup.co.jp\)](https://willgroup.co.jp)

https://willgroup.co.jp/ir/library/integrated_report/

[株式会社ウィルグループ | 個と組織をポジティブに変革するチェンジエージェント・グループ \(willgroup.co.jp\)](https://willgroup.co.jp) <https://willgroup.co.jp/>

[10年後もなくなる仕事 8 選\(theport.jp\)](https://theport.jp)